名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

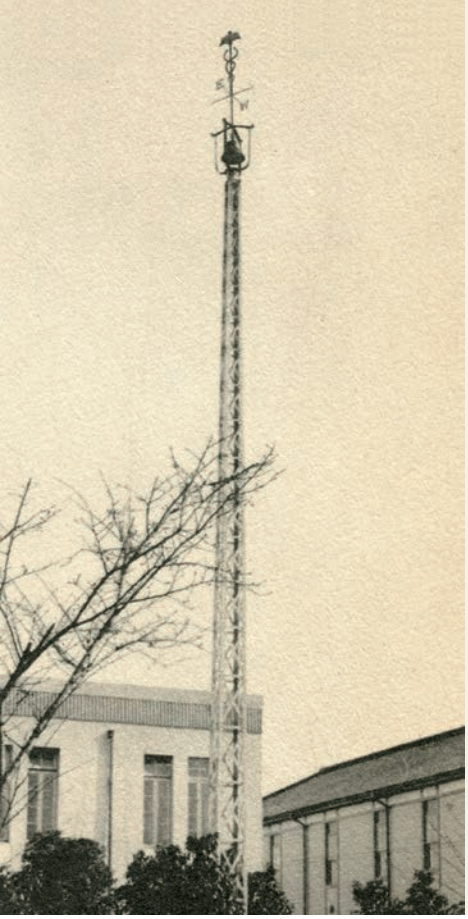
APPROACH PLUS

GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS

経済学へのアプローチ プラス

2027

名古屋大学大学院経済学研究科案内



理論 × 実践 × 倫理

経済学・経営学の特徴はその総合性にあります。経済学・経営学は、第一義的にはサイエンスであり、経済社会を対象とするディシプリンとして、普遍的に成立する抽象的な理論やモデルを志向します。そのために、先行研究を踏まえて自身の仮説を提示し、資料やデータを集めて仮説の成否を検証するという手続きが繰り返されます。他方で、経済学・経営学は実学でもあります。われわれは家計、企業、政府、その他あらゆる経済主体の提起する課題に対し、適切な解答を用意しなければなりません。そこで求められるものは、科学的に確証され普遍的に成立する理論に留まらず、日本であれ、アジアであれ、当該個別社会において観察される一般的知見や経験であるかもしれません。さらに、人々の厚生の向上、経済社会的正義の実現を目指す過程においては、人文学的叡智に裏付けられた倫理的価値判断も避けられません。

経済学・経営学において、これらの要素の結びつきは不可分です。他の社会科学分野でも、同じような理論・実践・倫理の三要素の交絡はあるでしょう。しかし、経済学・経営学ほどの緊張関係にはないと思われます。近年は専門分化が進み、ともすれば視野狭窄に陥りがちですが、私たちは、この経済学・経営学に固有の不可分性・総合性を常に意識して、研究と教育を進めています。

「創統の鐘」の由来

「創統の鐘」は、名古屋大学経済学部の前身である名古屋高等商業学校の第一回卒業生によって寄贈された其湛塔の塔頂にあって、二十有余年に亘り授業の開始と終了を告げた時鐘であります。

その妙音は近隣の市民にも愛されましたが、太平洋戦争の深刻化とともに、塔は取り壊され鉄材として供出されました。幸い「創統の鐘」は難を逃れ、名古屋大学経済学部に継承され、今日に至っております。

鐘銘は初代校長渡辺龍聖氏の撰になるもので、出典は孟子・二巻の「君子創業垂統、為可繼也＝君子は業を創め統を垂れ、継ぐべきことを為さんのみ」（君子はのちに発展する事業の基礎を築き、その事業を子孫に伝えるようにすればよい）にあります。先人の志を後輩が受け継いで発展させる、この「創統の精神」が鐘の音とともに永遠に本学に伝えられることを祈念いたします。

双方向の対話を通じて鍛える

問う力・考える力・説明する力

大学院における学修は、講義科目を履修して単位を取得する、あるいは、本や論文を読んでたくさんの知識を身につけることが中心ではありません。むしろ、指導教員との双方向の対話を通じて、研究テーマについて考え、修士論文・博士論文を執筆することが中心です。論文作成の一般的な流れは次の通りです。

多くの場合、研究のテーマは指導教員によって与えられるのではなく、学生自らが見つけ出さなければなりません。そのためには、まず、「どんな問題を解決すれば、我々の『知』が一歩前進するのか」を考えます。つまり、まずは「解」ではなく「問い」を発する力を付けなければなりません。「問い」が決まったらはじめて「解」を探します。しかし、実は「問い」を探す過程において「解」の見当はついていることが多いのです。ただし、それが間違いでないことを、丹念な論証と実証の積み重ねによって確認します。「解」に辿り着いたら、それを論文にまとめます。論文では、自分の発した「問い」がいかに重要であるか、どのような手順で「解」に辿り着こうとするのか、そして、どのような「解」が導かれるのかを、順序よく説明します。

このようなプロセスを経験することによって、価値ある「問いを発する力」、科学的な方法で「考える力」、論理的に「説明する力」を身につけます。

大学院の開講科目例（2026年度）

分野	基礎科目	専門科目	課題設定型講義・ワークショップ
理論・政策	上級価格理論Ⅰ・Ⅱ 上級所得理論Ⅰ・Ⅱ 上級計量経済Ⅰ・Ⅱ 上級数理経済Ⅰ・Ⅱ 価格理論Ⅰ・Ⅱ 所得理論Ⅰ・Ⅱ エコノメトリクスⅠ・Ⅱ	国際経済A・B 公共経済A・B 経済政策A・B 農業経済A・B 労働経済A・B 産業組織A・B 財政A・B 金融A・B	ミクロ・マクロ経済分析：理論と実証 ミクロ実証論文の読み方 日本経済論 International Communication（英語）
制度・歴史	上級政治経済学Ⅰ 上級経済史Ⅰ 上級経済学史Ⅰ	現代資本主義A・B 経済学史A・B 社会思想史A・B 日本経済史A・B 西洋経済史A・B	社会経済研究
経営・会計	上級経営Ⅰ・Ⅱ 上級会計Ⅰ・Ⅱ マネジメントⅠ・Ⅱ アカウンティングⅠ・Ⅱ	経営労務A・B ファイナンスA・B 生産管理A・B マーケティングA・B 経営組織A・B 経営戦略A・B 財務会計A・B 管理会計A・B 監査A・B 経営分析A・B 国際会計A・B 経営情報A・B	経済体制と企業経営 Introductory Accounting（英語） 現代経営論 人事管理 危機管理論 知財戦略 企業の海外戦略

※修了のためには、前期課程では演習を含め30単位（15科目）、後期課程では演習を含め20単位（10科目）の履修が標準必要です。
※本研究科では、レギュラーで開講される基礎科目・専門科目以外に、課題設定型講義、課題設定型ワークショップとして、その時々のニーズに合わせた科目や最先端の研究に触れる機会を提供しています。

理論×実践

社会人大学院生として学ぶ

経済学や経営学の面白さは、二十歳前後の実社会を知らない若者には分かりにくい部分があります。職に就いて、世の中や組織の仕組みを知ると、経済学や経営学への興味が湧き、面白さも分かってくるのではないでしょうか。大学を卒業して就職したものの、「もう一度勉強してみたい」「もう少し勉強してみたい」「あのとき聞いた話をもう一度聞きたい」、そんな社会人の要請に応えるためのカリキュラムを用意しています。

土曜日開講の集中講義や、夜間（18：15分以降）に開講される講義を充実させるほか、実務経験豊富な方を講師に迎えた講義も開講しています。また、社会人大学院生どうしの交流も活発に行われ、他企業、異業種との交流の場にもなっています。社会人が実務における問題や経験を持ち寄って集い、実務とアカデミズムとが切磋琢磨しあえる、そんな学びの場を提供したいと思っています。

実務家非常勤講師の一部（2026年度）

日本経済論	名古屋大学　客員教授 元　東海銀行　専務取締役	水谷研治
現代経営論	元イズミヤ㈱　総務統括部長 元　㈱スタジオアリス　副会長	伊貝武臣
企業の海外戦略	元　トヨタ自動車　常務役員 元　東海理化　社長	牛山雄造
危機管理論	三重大学　特任教授 元　石原産業　グループリーダー	岡　良明
知財戦略	碓氷特許事務所　所長 元　デンソー知的財産部　部長	碓氷裕彦
人事管理	V字経営研究所　社長 元　三菱UFJリサーチ＆コンサルティング㈱　部長	酒井英之
アカウンティングII	日本ハム㈱　執行役員 VBM推進室／サステナビリティ部担当	大西　淳

他分野×経済学

他学部を卒業して経済・経営を学ぶ

経済学・経営学は、法学、数学、工学、政治学、倫理学、心理学、統計学、物理学など、他の学問分野の影響を受けながら発展してきました。最近では、様々な領域融合型の大学院が開設されていますが、経済学・経営学は、まさに文理融合・領域融合の学問であり、その成功事例と言えるでしょう。今では、確立された一つの学問分野であることに誰も疑いを持ちません。

しかし、経済学・経営学を発展させるためには、今後もまだまだ他分野の知識が必要です。他の学部で培った専門的知識は経済学研究科でも活かされることでしょう。

本研究科は、経済学部以外の学部を卒業した人も広く受け入れています。これまでにも、理学部、法学部、文学部、工学部などの卒業生を受け入れてきました。また、研究科の教員にも、経済学部以外の学部を卒業した教員がたくさんいます。こうした仲間や教員と日常的に関わることで、専門的知識だけでなく、異分野の人とのコミュニケーションを可能にする、幅広い教養や知識、論理的思考力を自然と身につけることができます。

荒山裕行（名誉教授：農学部卒）	農業経済	安藤隆穂（名誉教授：法学部卒）	社会思想史
高桑宗右ヱ門（名誉教授：工学部卒）	経営情報論	犬塚　篤（教授：工学部卒）	経営組織論
樋野　励（教授：工学部卒）	生産管理論	鍋島直樹（教授：教育学部卒）	政治経済学
髙橋　聡（准教授：工学部卒）	経営情報論	中島英喜（准教授：工学部卒）	ファイナンス

大学院修了後の進路

大学院修了後は、専門知識を活かした職業に就くことが多いようです。前期課程（修士課程）を修了して就職する場合には、金融機関、監査法人、あるいは官公庁への就職が目立ちます。後期課程（博士課程）を修了して就職する場合には、大学などの研究職に就くことがほとんどです。

■前期課程

ARISE analytics、Deloitte China、EDIONクロスベンチャーズ、IHI、Tencent、アイヴィス、愛知県、愛知淑徳大学教員、アクセンチュア、開元、キーエンスソフトウェア、構造計画研究所ホールディングス、国元証券、ジーリー（吉利）汽車、上海高校教員、ソフィア総合研究所、中国工商銀行　重慶分行、テクノスジャパン、デロイトトーマツ、東陽テクニカ、ニッセイアセットマネジメント、日鉄ソリューションズサービスアンドテクノロジー、ネオジャパン、農林中央金庫、ハイアール、パナソニック（中国）、福岡倉庫、マーチャント銀行、三菱電機デジタルイノベーション、明治産業、容誠会計事務所、レバレジーズ　ほか

■後期課程

あいち銀行、アマゾンジャパン、トヨタ自動車、名古屋大学教員、日本入試センター　ほか

中京テレビ放送株式会社
報道局「キャッチ!」番組デスク
鈴木 拓己さん
2017年度修了

名古屋大学では、経済学研究科の修士課程に在籍していました。マクロ経済学を専攻し、主にOLG（世代重複）モデルを用いての理論分析を行いました。多種多様な講義を受け、ゼミでは教授による手厚い指導のもとで、仲間と共に熱い議論を行いました。

修士論文は、OLGモデルを用いて、「教育補助政策の効率性が生産と賃金格差に与える影響について」というテーマで執筆しました。何ヶ月にも及ぶ執筆は多くの苦労がありましたが、教授の支えもあり完成させることができました。ひとつのテーマに真正面から向き合った経験は、「モノを考える」ための大切な礎となっています。

私は卒業後、中京テレビ放送に就職し、報道局の記者となりました。記者を志した原点は大学院での経験にあります。経済学を通して様々な社会問題に触れることで、その現場を記者として取材し、人々に伝えたいと思うようになりました。実際の取材では、当事者の方々への取材だけでなく専門家への取材も行います。その際には、経済学の知識や考え方が大いに役に立つ場面が多々あります。大学院での経験のお陰で、「自分にしかない記者像」を持つことができていると思います。

振り返ると、大学院での日々は、人生にとってかけがえのない時期でした。学部時代とは違う深い思考力を養うことができ、人生を豊かなものにしてくれていると思います。ぜひ、皆さんも経済学と向き合う日々を名古屋大学の大学院で過ごしてみてください。

大学院入試情報

出願書類受付期間（一般入試・社会人一般コース共通）　**第一次募集 → 8月中旬頃**　**第二次募集 → 12月下旬頃**

博士前期課程一般入試

2027年度入試より研究者養成コースと高度専門人養成コースに分けて募集します（併願可）。

1．出願資格
大学を卒業した者及び出願年度の3月31日までに卒業見込みの者

2．募集人員
○社会経済システム専攻 30名　○産業経営システム専攻 14名

3．選抜の方法（第一次募集）
(1)　第一次試験（学科試験）
(2)　第二次試験（口述試験）〈第一次試験合格者のみ〉
※英語能力については、TOEFL-iBT / TOEIC / IELTSの成績通知書によって評価します。

博士前期課程社会人一般コース

1．出願資格
大学を卒業した後、通算して満3年以上の社会経験を有する社会人

2．募集人員
10名程度

3．選抜の方法（第一次募集）
(1)　第一次試験（学科試験）
(2)　第二次試験（口述試験）〈第一次試験合格者のみ〉

第一次募集の学科試験の詳細は以下の通り

専　攻		一般入試	社会人一般コース
社会経済システム専攻	A類（ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学（統計学分野を含む）） B類（政治経済学・経済史）	A類は3題、B・C・D類は各2題出題される。研究者養成コース：受験者は、A～D類より合計2題を選択すること。ただし、自分の申請した専攻に対応する類の中から少なくとも1題は選択すること。高度専門人養成コース：申請した専攻によらず、A～D類より1題選択すること。	A類は3題、B・C・D・E類は各2題出題される。受験者は、全体の中から類を問わず2題選択する。
産業経営システム専攻	C類（経営学） D類（会計学）		
	E類（経済・経営事情関係）		

【問い合わせ先】名古屋大学文系教務課（経済G）　MAIL. soec-apply@t.mail.nagoya-u.ac.jp
※詳細は経済学研究科ホームページをご確認ください。

経済学部・経済学研究科同窓会「キタン会」

各界の第一線で活躍する先輩

名古屋大学経済学部・経済学研究科には「キタン（其湛）会」という、名古屋高等商業学校（1920年創立）から受け継がれた同窓会組織があります。その名称は、中国の古典『詩経』「小雅」篇にある「子孫其湛其湛曰楽各奏爾能」（天から幸福を授かり、子孫がその恵みを享受し、得意の技能を披露している）という子孫繁栄の祝歌から採ったもので、「母校の発展を願ってきた多くの先輩の志を受け継ぎ、後輩の幸福に寄与する」という意味があります。2万1000人以上の卒業生のために、東京、関西をはじめ全国に支部を設けています。また、名古屋市職員で組織する「丸八キタン会」や、企業・団体別に同窓会を組織しているところもあります。キタン会は、卒業生の親睦を深めるだけでなく、経済学部や経済学研究科に対して各種の支援事業（留学支援など）を行ってくれています。入学時から、在学中、卒業時まで、みなさんの学生生活を財政面と人的ネットワークの面から支えてくれています。

活動内容

『世代を超えてのネットワークづくり』『学友や先輩とも有意義な時間を共有できる場』です

キタン会は年間を通じて交流があります。

＊６月の名大祭には、ウエルカムイベントが開催され、先輩や新しい友との交流や各界で活躍するOB/OGの参加もあり、世代を超えて親しく会話し学ぶこともたくさんある貴重な機会です。また、学生有志による模擬店出店などの企画もあります。

＊10月の名古屋大学ホームカミングデイでは「オープンカレッジ」経済・経営学の面白さが発見できるような講義や同期会なども開催しています。

＊１月には新春講演会、支部の懇親会もあり、世代を超えての交流を深めています。

＊３月は「卒業のお祝い・同窓会キタン会へ入会歓迎」としてフェアウエルイベントを開催しています。

イベントの詳細はキタン会のメルマガやHPでタイムリーな情報を発信しています。

留学助成や業界研究会などの学生支援も活発に行っています

《海外派遣プログラムで学ぶ》ドイツ・フライブルク夏季派遣プログラムやシンガポール派遣プログラムへの短期留学の助成をしています。

《ゼミナールで学ぶ》どのゼミを選んだらいいか迷う？との声により、ゼミ紹介イベントを開催しています。各ゼミの代表からゼミの内容や実績などのプレゼンがされ、ゼミ選択の礎になっています。

《企業研究や就職活動の支援》をするため、人気の企業による「キャリア形成講習/業界説明会」を開催しています。学部・学年を問わず参加ができ、自分がどの企業・業界に適しているのか？発見することができ、将来を考える絶好の機会となります。

就活を終えた４年生による就活体験報告や相談会も開催しています。ネットでは得られない情報・質問にも答えてもらうことが出来ます。

キタン会 会長
鈴木 武

刈谷高から、1970年経済学部卒。
(元)トヨタ自動車・専務
(現)東海国立大学機構・理事

同窓の絆！・交流の場！を大切にしています。

キタン会のロゴマークは同窓生・学生・教員の《三つの和(輪)》があってこそ、お互いの繁栄が得られるとの「其湛」の精神を表しています。

ネット社会の利便性を利用してオンライン開催の交流もありますが、三つの和(輪)がさらに広がり、世代を超えた交流ができることを願っています。

附属機関・施設

学部生・院生の学びをフォロー

名古屋大学には、中央図書館の他に、各学部の図書室があります。経済学図書室は、その蔵書の質と量、閲覧環境等において、名古屋大学の学部図書室の中でも指折りの図書室です。また、経済学部・経済学研究科には国際経済政策研究センターがあり、各種の統計データ、産業、企業、労働等に関する資料を入手することができます。

経済学図書室

経済学図書室は、国内外の経済学及び周辺分野の図書、雑誌、電子ジャーナル、最新のデータベース、電子書籍を揃えています。なかでも、EU、OECD、IMF等の国際機関刊行物、アメリカ等外国政府刊行物は蔵書の特色の一つです。特にEUについては、イギリス等がECに加盟した1973年以来、経済学図書室は EU情報センターに指定され、EU公式資料の主たるものはほとんど受け入れています。

また、伝統ある経済学、社会思想の古典類についてもよく収集されており、貴重書室には、1850年以前に刊行された図書が、革の背をみせて並んでいます。中には、アダム・スミスの『国富論』、マルクスの『資本論』、ケインズの『雇用、利子および貨幣の一般理論』の初版本等もあります。経済学の礎を築いたり、世界史を動かすもとになった名著が、出版時の雰囲気を今に伝えています。この他に、「イギリス革命文献コレクション」（イギリス革命に関する17世紀から18世紀の原資料およびその研究文献）、小川文庫（イギリス経済学とくに重商主義者、古典学派、リカード派、社会主義派の著作）、徳重文庫（18世紀および19世紀の西欧社会思想）もあります。

さらに、経済学部ゼミ対象の講習会「経済産業情報の探し方」を毎年開催し、学習・研究に必要な文献やデータなどの情報収集方法を紹介しています。カウンターでも利用相談や参考調査を随時受け付けています。

国際経済政策研究センター

国際経済政策研究センターの起源は、名古屋大学経済学部の前身である名古屋高等商業学校（1920年創立）に設けられた産業調査室です。後に「雁行形態論」で国際的に有名になる赤松要が、実証に基礎づけられた経済の研究をするためには、統計などを体系的に収集する組織が必要であると訴えて、1926年に産業調査室が設置されました。

これを継承した名古屋大学経済学部・経済学研究科は、今日まで、着々とデータを集め続けてきました。100年近くにわたって地道に蓄積された経済統計資料、政府刊行物、企業体資料の内容は中部地区では抜きんでたもので、たとえ大金をつぎ込んでも今からではもう決して作られない貴重な財産となっております。この他、社史の収集や荒木光太郎文書（元東京帝国大学経済学部教授のコレクション）をはじめ、所蔵コレクションの整理も積極的に行っており、学内外から幅広く利用されております。もっとも、今日では単なる資料収集・整理組織ではありません。1970年代からの度重なる改組によって、研究機関としても着実に発展してきました。研究・教育の両面で経済学研究科と緊密に協力しつつ、広い視点から実証的な調査・研究を行っています。そして、その成果を内外の大学や研究機関をはじめ、広く社会に還元しています。

大学院進学

大学卒業後、さらに深く学ぼうとする人のための教育・研究のための場が大学院です。大学院は、単に研究者になるためだけのものではありません。大学院には2年の前期課程（修士課程）とその後3年の後期課程（博士課程）があり、前期課程を修了した時点で企業などに就職する道も開かれています。

大学院では、講義を通じて教科書の内容を学ぶだけでなく、指導教員の下で、専門書や論文を読み、実地調査やデータの分析を通じて、学問の本質に迫ります。一方的に知識を教えられるのではなく、指導教員との双方向の対話を通じて「問う力」「考える力」「説明する力」を身につけます。また、大学院には留学生や社会人として大学院に通っている人達がたくさんいます。こうした多様な人達と触れあい、視野を広げられることも大学院の魅力です。

企業に就職する前に、社会を俯瞰的に捉えられるようになりたい、人とは違う新しい発想をしてみたい、自分の意思決定に自信を持てるようになりたい、そう思ったら、大学院進学も良いかもしれません。

経済学研究科
社会経済システム専攻

M1 中川 真如 さん

私が大学院進学を決意した理由は、学部で経済学を学ぶ中で、社会問題を理論的に考える面白さに気づいたことにあります。特に、所得格差や再分配といった問題に関心を持ち、政策が人々の選択や将来の経済にどのような影響を与えるのかを、より深く学びたいと考えるようになりました。

学部時代には、授業で学んだマクロ経済学や公共経済学を手がかりに、関心のある文献を自分で読み進めながら、経済学の考え方を少しずつ深めていきました。その中で、経済学の理論は単なる数式ではなく、現実の複雑な社会を一定の仮定のもとで整理し、政策の効果を筋道立てて考えるための道具であることを実感しました。一方で、自分の関心を研究として形にするためには、より高度な知識と分析手法が必要であることも感じました。そのため、大学院でさらに専門的に学び、研究に取り組むことを選びました。

現在は、マクロ経済学や公共経済学を基礎として、世代重複モデルを用いた動学的成長理論を中心に、所得分配や再分配政策のあり方について理論的に研究しています。研究を進める中では難しさを感じることも多くありますが、先生方との議論や文献の精読を通じて、自分の考えが少しずつ深まっていくことに大きなやりがいを感じています。大学院での学びを通じて、社会をより広い視点から捉え、自分なりの問題意識を持って貢献できる人材になりたいと考えています。

卒業生就職等状況一覧表

	業種		2023年度	2024年度	2025年度
1	農林・水産業				
2	鉱業				
3	建設業		6	3	10
4	製造業	食品・たばこ・飲料	2		2
5		繊維・衣類・その他の繊維			1
6		印刷等			
7		化学工業・石油・石炭製品	4	2	3
8		鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	2	2	3
9		一般機械器具	4	3	6
10		電気・情報通信・機械器具	7	2	5
11		電子部品・テバイス			3
12		輸送用機械器具	18	14	14
13		精密機械器具			
14		その他	4	5	4
15	電気・ガス・水道業		4	7	9
16	情報通信業		30	28	25
17	運輸業		4	5	2
18	卸売業		4	3	6

	業種	2023年度	2024年度	2025年度
19	小売業	2	3	2
20	金融業	34	38	40
21	保険業	12	10	15
22	不動産業	2	2	3
23	学術研究　専門・技術サービス業	23	26	33
24	飲食店・宿泊業			
25	生活関連サービス業　娯楽業	1	2	7
26	医療・福祉	1		
27	教育・学習支援業	3	1	2
28	複合サービス事業			
29	サービス業	6	7	4
30	国家公務	11	7	3
31	地方公務	8	9	14
32	その他			
	小計	192	179	216
33	大学院進学	12	8	13
34	その他	16	14	7
	計	220	201	236

卒業後の進路

就職率だけでなく、それぞれの適性にあった就職を支援

本学部では、毎年、ほぼ100%の学生が希望通りに就職しており、各種調査による、経済・経営・商学系の就職率ランキングでは、全国1位になっています。就職先は、製造業、サービス業、公務員まで多岐にわたります。また、毎年20～30名ほどの学生が公認会計士の資格取得を目指しています。

また、本学部では、同窓会であるキタン会と連携して、単に有名企業や人気企業への就職を目指すのではなく、学生ができるだけ幅広い業種に目を向けて、適性にあった就職先を見つけるための支援もしています。例えば東証プライム上場企業を中心とした60社以上の企業による「キャリア形成講習」の開催、年齢の比較的近いOBと懇談できる企業見学会を開催するなどしています。

2025年度卒業
川崎重工業
木野 博登 さん

名古屋大学経済学部は、自分自身の将来と真剣に向き合い、自己実現を果たすための最適な環境です。就職活動を控えて将来に不安を感じることもあるでしょうが、ここではその迷いを自信へと変える機会が豊富に用意されています。

最大の特徴は、全国から集まる極めて優秀な仲間たちと共に過ごせる点です。日々の授業やゼミでの高度な議論は、自分の視野を大きく広げてくれます。たとえ目指す進路や業界が異なっていたとしても、それぞれの目標に向かってひたむきに努力する仲間の姿は、何よりも大きなモチベーションとなります。困難に直面した際、互いに高め合える友人の存在は、自分を突き動かす原動力となるはずです。

また、多岐にわたる分野で活躍する先輩方との交流や、専門的な学びを通じて、社会のリアルな姿を捉え、自分の強みに気づくことができます。私自身も、多様なバックグラウンドを持つ人々との関わりの中で、明確な志を持つことができました。

大学での学びや築いた人間関係は、大学生活のみならず、社会人としての重要な基盤となります。この恵まれた環境を最大限に活用し、時には「人生の夏休み」を全力で楽しみながら、豊かな経験を積み重ねてください。ここでの出会いと研鑽が、自信を持って未来へ踏み出すための揺るぎない支えになることを確信しています。

2024年度卒業
名古屋銀行
鈴木 翔子 さん

地域に寄り添い、人と企業を支える仕事へ―

私は現在、名古屋銀行で営業を担当し、地域の中小企業のお客様に向けた提案業務を行っています。融資だけでなく、人材紹介や経営相談など、お客様の課題解決につながる幅広い提案を行う仕事です。

名古屋大学経済学部では、経済だけでなく経営分野についても学ぶことができました。営業先で経営者の方とお話しする際には、大学で学んだ知識が役立っていると感じます。また、寄付講義を通してさまざまな業界や企業を知る機会が多く、就職活動では視野を広げながら進路を考えることができました。

私が名古屋大学を選んだ理由は、「地元・名古屋で学びたい」という思いがあったからです。オープンキャンパスで感じた自由で活気ある雰囲気にも魅力を感じました。入学後は、優秀で刺激を与えてくれる仲間に囲まれ、多様な価値観に触れながら成長することができました。卒業後も友人たちはさまざまな分野で活躍しており、今でも大きな刺激になっています。

学生時代には名大祭実行委員として活動し、地域とのつながりの大切さも実感しました。名古屋大学には、自分の可能性を広げられる環境があります。後輩のみなさんにも、ぜひ多くの出会いや学びを楽しんでほしいと思います。

主な就職先（2026年３月卒業）

AKKODiSコンサルティング、CCIグループ、ENEOS、EY新日本有限責任監査法人、FPT Corporation、Grand Central、JERA、JFEエンジニアリング、JR西日本電気システム、JTB、KANNON、KPMGコンサルティング、KPMG税理士法人、kubell、NTTドコモ、NTTファイナンス、PwC Japan有限責任監査法人、SHIFT、SMBC日興証券、TEP、TIS、TKC、Trip Port、アーキテックス、アイシン、愛知県、アクセンチュア、アビームコンサルティング、アビームシステムズ、イオンモール、イビデン、エイチ・アイ・エス、エムスリーキャリア、大垣共立銀行、大阪市、オービック、オープンハウスグループ、岡谷コンサルタント、オリエンタル白石、オリックス、鹿島建設、兼松、川崎重工業、紀陽銀行、月桂冠、コーエーテクモホールディングス、サンワトレーディング、シーユーシー、ジェイテクト、シグマクシス・ホールディングス、四国電力、静岡ガス、静岡銀行、静岡県、システムサポート、システムリサーチ、十六フィナンシャルグループ、情報企画、真永工業、信金中央金庫、住友化学、住友生命保険、住友電気工業、住友電装、税理士法人パートナーズ、セキスイハイム東海、双日、ソユー、大成建設、大成地所、大同興業、大同特殊鋼、大和証券、中日新聞社、中日ドラゴンズ、中部電力パワーグリッド、データアナリティクスラボ、デロイトトーマツ、デロイトトーマツ税理士法人、デンソー、電通総研、電通デジタル、東海財務局、東海総合通信局、東京海上日動火災保険、東京都、東邦ガス、東レ、トーエネック、豊田合成、トヨタ自動車、豊田自動織機、豊田通商、トヨタホーム、トランスコスモス、中日本高速道路、名古屋銀行、名古屋市、名古屋鉄道、名古屋テレビ放送、NTT西日本株式会社、ニッセイ情報テクノロジー、日鉄ソリューションズ、日本政策金融公庫、日本取引所グループ、日本郵政、ニトリ、日本ガイシ、日本生命保険、日本相互証券、日本特殊陶業、農林中央金庫、野村アセットマネジメント、野村総合研究所、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング、ハウス食品、パナソニックハウジングソリューションズ、林テレンプ、パラマウントベッド、ビジネスブレイン太田昭和、富士通、フタバ産業、不動産SHOPナカジツ、プラザー工業、ブリーチ、古河電気工業、ベイカレント、ベイカレント・コンサルティング、碧海信用金庫、ベリサーブ、北陸銀行、マキタ、松江市、マツダ、マルハン、三重県、みずほ銀行、三井住友カード、三井住友信託銀行、三井不動産ビルマネジメント、三菱HCキャピタル、三菱UFJ銀行、三菱重工業、ミネベアミツミ、ミルボン、明治生命保険、メニコン、山梨県、やる気スイッチグループ、有限責任あずさ監査法人、有限責任監査法人トーマツ、ゆうちょ銀行、ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン、りそな銀行、りそなグループ、林野庁、ルネサスエレクトロニクス

学部・修士５年一貫教育プログラムで学ぶ

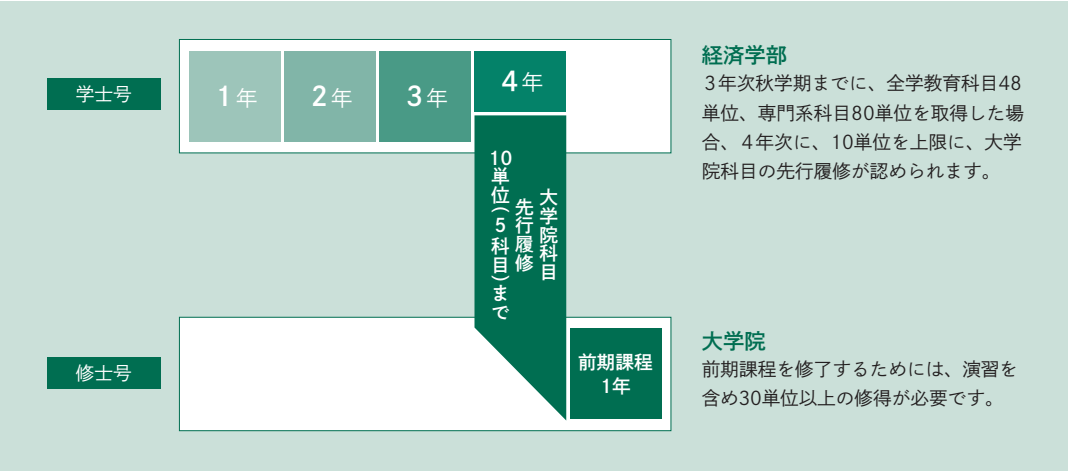
＋１年で取得するプロフェッショナルへのパスポート

経済学部の４年の課程を修了すると、みなさんには、「学士」という学位が授与されます。その後、大学院で２年の課程（前期課程）を修了すると「修士」、さらにその後３年の課程（後期課程）を修了すると「博士」の学位が授与されます。修士は「マスター」、博士は「ドクター」ともよばれます。修士号を取得するということは、先端的な研究についてもよく理解して、学術的な調査や分析の方法を修得しているということです。

日本の、特に文系の学部では、修士・博士という学位を取得することは、あまり重要視されていないようです。しかし、日本でも、理系の学部では修士の学位を持つことは普通になっています。また、海外では、どこの大学を卒業したかに加えて、学士・修士・博士という学位の違いが意識されることも多いようです。将来、グローバルな企業で働こうと思っている人は、修士号を取得しておいても損をすることはないでしょう。

名古屋大学の経済学部には、学部４年＋修士２年の計６年の課程を５年（学部４年＋修士１年）で短縮修了できるプログラムがあります。３年次に一定の成績基準を満たしている学生はこのプログラムに挑戦することができます。

■ 学部・修士５年一貫教育プログラムの仕組み



わたしが大学院で学ぶ理由

経済学部 経営学科
4年 則竹 雄介 さん
学部・修士５年一貫教育プログラム大学院科目履修資格者

私が大学院に進もうと思ったきっかけは、学部・修士５年一貫教育プログラムでした。漠然とした思いで学生生活を過ごしているなかで、大学院の敷居は相当に高く感じていましたが、いざ大学院で学ぶ事を視野に入れると「なぜ自分は大学で学ぶのか」ということを強く意識するようになりました。キャリアを積む場としての大学もあり得るのですが、それよりも「自分が何をできるようになりたいのか」という考えが浮かび、そのために何を学ぶ必要があるのかを考えるようになったと思います。そうすると大学院もそう悪くはありませんでした。

しかし、大学院で学ぶことはそう簡単に決められるものでもありません。未だに大学院に所属していなくても、大学院生として書くべき論文の精度は理解しており、そのレベルは非常に高く感じます。とりわけ「間違いのない知識・分析手法を学んで使いこなすこと」と「どのような論文を書くのかという構想を練ること」は非常に重荷になると予感しています。それでも長い時間をかけてじっくり理解することは自分ができることを着実に増やし、自身のテーマを書き上げることは誰にも負けない分野を持つことと同義に感じます。これを「投資」と捉えれば、なかなかに良いリターンなのでは？と感じるのは私だけじゃないと思っています。

まさに長短がある大学院ですが、私は特に大学院での知識を働くときに発揮したいと考えてます。それゆえにテーマも自身が目指す業界を調べたいと思っています。だからもしこれで大学院を出ることが出来たのならば、どんなに自信をもって過ごしていけるのか、そう考えて今後も励んでいきたいと考えてます。

海外派遣プログラムで学ぶ

大学全体のプログラムに加え、経済学部独自の海外派遣プログラムも充実

名古屋大学経済学部では、グローバル人材の育成を目指して、複数の国際交流プログラムを提供しています。例えば、ドイツ・フライブルク大学への夏季派遣プログラム、シンガポール国立大学への派遣プログラム、韓国の高麗大学への派遣プログラムなどがあります。１学年205名の入学定員に対して約40名分の枠が用意されているため、５人に１人はこれらのプログラムを利用して海外経験をすることになります。また、これらの派遣プログラムでは、政府や企業、大学や同窓会（キタン会）から資金的な支援を頂いて、学生の渡航費用を補助しています。

学生の派遣だけではなく、シンガポールなどの海外協定大学の学生の受け入れも行っています。日本に来た学生は、学内で講義を受講するだけでなく、名古屋大学の学生と一緒に工場見学やグループワークに参加しています。名古屋大学の学生は、日本に居ながらにして、あるいは、自分が海外派遣プログラムに参加する前に、国内で海外の優秀な学生と触れあい、一緒に学ぶことができます。

さらに、名古屋大学全体としても、世界に100以上の協定大学をもち、数多くの海外派遣プログラムを提供していますので、学生は自分の語学レベルや目的に合ったプログラムを選択することができます。経済学部の派遣プログラムを経験した学生の多くが、その後、交換留学しています。

●シンガポール国立大学への派遣
時期：９月／日数：10日間／人数：10名程度／内容：日本企業の訪問・現地学生とのディスカッション

●フライブルク大学への派遣
時期：９月頃／日数：４週間／人数：10名程度／内容：語学研修・フィールドワーク

●高麗大学への派遣
時期：12月～１月／日数：３週間／人数：10名程度／内容：人文社会理系の英語開講講義から選択受講

経済学部 経済学科
3年 末弘 晏理 さん

私は経済学部のプログラムで２年生の夏に１週間のシンガポール研修に参加し、３年生の夏からはアメリカ・ボストンのブランダイス大学に１年間交換留学をする予定です。

シンガポール研修のメインは、現地調査を基に若者向けツアーの企画・HISシンガポール支社へのプレゼンテーション課題と、シンガポール国立大学（NUS）への訪問でした。HIS社の課題を通じて、相手を納得させ提案の価値を認められることにやりがいを感じると同時に、NUSでの現地学生との議論では能力不足を認識しました。国際的なビジネスの最前線で活躍したいという目標のためには、論理的な説得力、交渉や議論をする英語力、そして本質を見抜く批判的思考が足りないと感じ、自分を鍛える次のステップとしてアメリカへの留学を決めました。

ブランダイス大学の徹底した少人数教育の環境は、対話によって自分の思考を深めるのに最適と感じました。またリベラルアーツ教育の下で、ビジネスを専攻の軸に据えつつ、心理学などの他分野も学べることも大きな魅力です。交渉やマーケティングにおいて、多方面からの視点を持ち、より説得力のある提案ができることを期待しています。クラブ活動にも参加し、他の学生と交流を深め、良い信頼関係を築きたいです。

ブランダイスでの学びを通じて自分の発想力と論理的な対話力を磨き、実社会で活かすことを目標にしています。確かな戦力として社会に貢献できるステップとして、この交換留学に全力を尽くします。

経済学部 経営学科
4年 山田 凛 さん

「高麗大学英語開講冬季プログラム」に参加し、人文教養科目を英語で学びました。参加前は、留学経験はもちろん海外渡航の経験もなかったため、すべて英語で行われる講義を受講することに大きな不安を抱きながら渡航したことを覚えています。

講義では、K-Cultureの背景にある韓国メディアの歴史や特徴について学びました。内容自体は、大学受験で身につけたリスニングやリーディングの力で問題なく理解できましたが、レクチャー後のディスカッションで意見を交わす際には、思うように発言できず、もどかしさを感じる場面もありました。もっと論理的に自分の考えを伝えられるようになりたいという思いは、帰国後の英語学習への大きな原動力となりました。

もう一つの大きな収穫は「自信」です。鑑賞した作品について課された2000字程度の期末レポートを自分の力で英語で書き上げ、良い成績を収めることができたことは、大きな自信につながりました。

実際に海外に行ってみなければ得られない経験が数多くあることを実感し、世界中の学生との交流を通して自分の視野が大きく広がったと感じています。今回の経験を糧に、今後も積極的に挑戦していきたいと思います。

プロフェッショナルを目指す

大学での学びをキャリアにつなげる

経済学部では、資格試験の教育で実績がある学校法人名古屋大原学園と会計専門職育成に関する業務提携を結び、公認会計士試験の受験対策講座を開講しています。（受講には別途受講料が必要です。）

公認会計士の魅力

公認会計士は会計のプロフェッショナルです。主な仕事は、企業が作成する財務諸表（決算書）に虚偽がないかをチェックする「監査」ですが、その他にも起業の支援やコンサルティングなど、活躍の領域は多岐にわたります。

また、公認会計士資格を持っていることは、一般企業への就職でも有利です。国家資格を武器にすることで、特定の会社に依存せず自由に仕事を選べます。

世界的な人気企業で働く

右上の表は、世界の人気企業のランキングです。Google, Apple, Microsoftなどと並んでランクインしているのが監査法人です。公認会計士は、多くの場合、これらの監査法人で働くことになります。国内の人気企業だけではなく、世界的な人気企業を目指してみてはどうでしょうか。

Business Students

	Employer	2022
	Apple	1
	Google	2
	Microsoft	3
	Amazon	4
	L'Oréal Group	5
6位	Deloitte（有限責任監査法人トーマツ（デロイト トーマツグループ））	6
	JPMorgan Chase & Company	7
	Goldman Sachs	8
9位	EY（Ernst&Young）（EY新日本有限責任監査法人）	9
10位	KPMG（有限責任あずさ監査法人（KPMGジャパン））	10
11位	PwC (PricewaterhouseCoopers)（PwCあらた有限責任監査法人）	11
	BMW Group	12

（出所）Universum「World's Most Attractive Employers | 2022」

講座の特徴

公認会計士講座の授業は、大学の授業期間中は大学の校舎内で受講することができるので、移動に時間を使わずにすみます。また、大学の時間割や定期試験の日程に合わせた、受講しやすいカリキュラムになっています。

また、専用の教室が用意されていて、授業のないときは、自習室として自由に使うことができます。この部屋で仲間ができて、一緒に勉強を頑張ることができます。

大学授業と被らないよう、平日・土曜に授業を実施　春休みは大原で集中授業　短答対策の問題演習

2026年4月～11月	11月～2027年2月	4月～8月	8月～12月	12月～2028年5月	2028年5月～8月	8月～11月
簿記３級・２級の内容を学習※1	大学で授業	大原で授業	大学と大原で授業※2	大原で演習※2と授業	大原で演習※2と授業※3	大原で演習	就職活動
	日商簿記検定２級を受験			短答式試験	短答式試験	論文式試験	論文式試験合格発表

※１…名古屋大学の授業科目の内、簿記３級は『会計Ⅰ』を、簿記２級は『会計Ⅱ』・『財務諸表Ⅰ』を履修することで学習が可能です。
　簿記３級・２級を学習していない方は、事前にご相談ください。（学習開始時期が異なってくる場合があります。）
※２…ST演習と呼ばれる１時間の財務･管理の問題演習があります。
※３…短答式の試験科目ではない選択科目･租税法の授業があります。

榊原 弘恭 さん

現役一発合格

2018年	名古屋大学経済学部入学
同年秋	公認会計士講座開始
2020年	大学３年次に公認会計士試験に合格
2021年	有限責任監査法人トーマツにて、学生非常勤として勤務
2022年	名古屋大学を卒業、有限責任監査法人トーマツに入所

講座の思い出は…

この講座の大きな特徴は、①大学の授業に沿ったスケジュール、②大学内の専用の自習室・教室です。大学の授業に合わせてスケジュールが組まれるため、負担なく大学の授業との両立ができました。また、会計士受験生専用の自習室が用意され、授業もここで受けます。空きコマの時間や、夕方も大学内で自習ができます。専用の自習室なので、一緒に勉強する受講生と相談し、助け合いながら勉強を進めることができました。長い戦いになりますが、同じ大学の友人と勉強を進め、合格後は同じ監査法人で働くことができ、今でも仲良くできているのもこの講座の環境のおかげだと思っています。

会計士ならではの体験談

試験合格後、大学卒業までの１年間は学生非常勤として週４日監査法人で働き、卒業後はフルタイムで働いています。この資格を持って監査法人で働くと、たとえ学生でありながらも、経済の最先端で働く様々な方と同じ場所で働くことができ、時には１人で対応することもあります。若いうちからでもそういった方々と共に働くことができる経験は、責任は大きいですが良い経験になります。多くの会社・業界に触れ、若いうちから多くの経験が積める点がこの仕事の魅力だと思います。

講座を検討している人へのアドバイス

会計士の資格に対する世間からの信頼は、学生時代に思っていたものよりもはるかに大きいです。独占業務の監査だけではなく、税務、コンサル、教育等、この資格を活かした道はいくらでも広がっています。合格までは険しい道のりですが、この講座で仲間と一緒に勉強すれば合格はかなり近づくはずです。将来やりたいことがある方も、そうでない方も、目指して損のない資格です。興味のある方はぜひ目指してみてください。数年後、一緒に働くことを楽しみにしています。

ゼミナールで学ぶ

徹底した少人数制による専門研究と人格的交流の場

経済学部のカリキュラムにおいて、ゼミナールは重要な役割を果たしています。ゼミは必修で、教員と原則8名までの学生によって構成されます。ここで専門分野の研究を集中的に行います。

まず2年次秋学期に、各教員によるゼミのテーマの発表、先輩達によるゼミ紹介などを参考にしてゼミを選択し、書類審査や面接を経て、所属ゼミが決定されます。そして、3年次からゼミが始まります。各ゼミの活動内容は多種多様ですが、一般的には、数冊のテキストを読み、報告・討論する形で運営されます。工場見学や企業調査を行ったりするゼミもあります。また、夏休みには、レポートが課されたり、ゼミ合宿を行ったりすることもあります。インターゼミナール（他大学との研究発表会）に参加するゼミもあります。4年次には、卒業論文の作成が重要な課題となります。研究テーマを絞り込み、より専門的な文献を読んだり、詳細なデータ分析をしたりします。そして1月中旬に、4年間の勉学の集大成として、卒業論文を提出します。

この他にも、ゼミ旅行やコンパ等、ゼミ単位の行事がたくさんあります。このように、ゼミは単に専門知識を学ぶだけの場ではなく、教員や学生同士の人格的交流の場でもあります。ゼミ活動にどのように関わるかで、経済学部の生活は大きく変わるといっていいでしょう。

犬塚ゼミナール

犬塚ゼミナールでは、実在する企業や産業を対象に、「なぜ成功したのか」「なぜ失敗したのか」を多面的に分析する訓練を行っています。財務データや有価証券報告書、業界動向などの事実をもとに仮説を立て、検証し、議論することで、経営を現実の問題として理解する力を養います。ゼミでは、他の学生の発表も含めて数多くの企業ケースを経験し、企業や産業が変化していく過程に共通するパターンを学んでいきます。また、自分で問いを立て、自分の言葉で考えを表現することを重視しており、将来の進路を問わず、社会の中で主体的に意思決定できる力を身につけることを目指しています。

犬塚ゼミでは、企業のケース分析を通じて、実践的に経営戦略を学びます。3年次前半はグループワークで、もしくは各自で、定点分析や変化点分析を中心に企業分析に取り組みます。4年次には、2年間の学びの集大成として卒業論文を作成します。毎週企業分析を行うため、多様な業界や企業について深く考える力を養うことができ、論理的思考力や課題発見力の向上にもつながります。さらに、実際の企業事例をもとに議論を重ねることで、就職後にも役立つ実践的な知識や分析力を身につけられる点も特徴です。ゼミでは発表やディスカッションの機会が多く、ゼミ生同士で積極的に意見交換を行うため、互いに刺激を受けながら自然と仲を深めることができます。チームワークでディスカッション能力を高めたい人、課題解決に興味がある人におすすめのゼミです！

3年 鵜飼 吟聖 さん

藤田ゼミナール

藤田ゼミでは、理論と実証の両面から現実問題にアプローチする分析力・思考力を身につけることを目標としています。3年春学期には、理論分析の一環として「効率と公正の関係」を題材にした専門書をベースに、両者がどのような条件の下で両立しうるかを考察します。また秋学期では、一事業がもたらす経済波及効果やCO_2排出量などを測定できる産業連関分析という実証手法を習得します。ゼミで得られた知見をインゼミで報告したり、その発展形を卒業論文にまとめたりしています。

藤田ゼミでは3年次から本格的な活動が始まります。最初に過去の経済学者たちの知見に触れ、理論的な思考の土台を徹底的に築きました。その後、一産業の経済全体に対する波及効果を定量的に測定できる「産業連関分析」の手法を習得し、合同ゼミでの発表を目指してグループ研究に取り組みました。研究テーマの自由度が高いことがこのゼミの大きな特徴です。私たちのグループではプライベートブランドと卸売・小売業の近年の関係性を分析しましたが、他グループではバレンタインを題材に考察する班もありました。基礎や先行研究を大切にするプロセスがあるからこそ、その応用として自分たちの興味を自由に、そして楽しく探究することを可能にしています。また、グループでの研究活動や産業連関分析などの基礎的な知識をしっかりと理解できることは就職活動にも役立ちました。理論と自由な発想を両立させ、知的な刺激を楽しみたい方にぴったりのゼミです。

4年 都築 優太 さん

経済と経営を複眼的に学ぶカリキュラム

名古屋大学経済学部のカリキュラムの特徴は、経済理論・経済政策、制度経済学・経済史、経営学・会計学という幅広い分野を網羅していることです。経済学部は経済学科と経営学科とに分かれていますが、どちらに所属しても、これらの分野を一通り勉強することになります。これによって、社会や市場全体を見渡す「経済学的視点」と、個別企業の立場から考える「経営学的視点」を同時に持つ複眼的な人材を育成します。また、歴史を通じて多様な経済体制について学ぶことで、現代社会を様々な切り口で分析できる人材を育成します。

経済学科　個人や企業の自由で合理的な意思決定に基づく社会全体の調和と発展について考えます。

経営学科　集団に調和と秩序を持たせる方法、合理的な意思決定の方法について考えます。

分野	分野の特徴	1年	2年春学期	2年秋学期～4年
理論・政策	「経済学」と聞いて最初に思い浮かべる主流派の経済学（近代経済学）を学びます。数理的な理論分析と統計的な実証分析を通じて、財政、労働、金融、農業、教育、医療などの社会問題を考える方法を学びます。「経済学を学んだ」と言うためには欠かすことのできない分野です。	統計解析 経済数学A 経済数学B マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 計量経済Ⅰ	マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 計量経済Ⅱ	国際経済 公共経済 経済政策 財政 金融 経済発展 労働経済 産業組織 農業経済
制度・歴史	経済学は大がかりな実験ができません。そこで、各国の多様な制度や歴史を手掛かりにして、政治、文化、社会など、多様な側面を考慮しながら、資本主義経済の仕組みを理解しようとする分野です。主流派の経済学を絶対視せず、批判的な目を持って理解するためにも欠かせない分野です。	政治経済学Ⅰ 一般経済史Ⅰ	政治経済学Ⅱ 一般経済史Ⅱ	経済学史 現代資本主義 日本経済史 西洋経済史 社会思想史
経営・会計	経済理論は、人や企業が合理的に行動すること、情報が完全に行き渡っていること、市場への参入・退出が自由であることを仮定しています。これを、立場を変えて、どうすれば合理的に行動できるか、どうやって情報を収集・処理するべきか、いつ、どうやって市場に参入・退出するべきかを考えます。3分野の中ではもっとも実践性を重視する分野です。	会計Ⅰ 会計Ⅱ 経営Ⅰ 財務諸表Ⅰ	経営Ⅱ 財務諸表Ⅱ	財務会計 管理会計 経営組織 ファイナンス 生産管理 情報処理 国際会計 経営分析 経営労務 マーケティング 経営戦略 監査 経営情報

T字型人材の育成

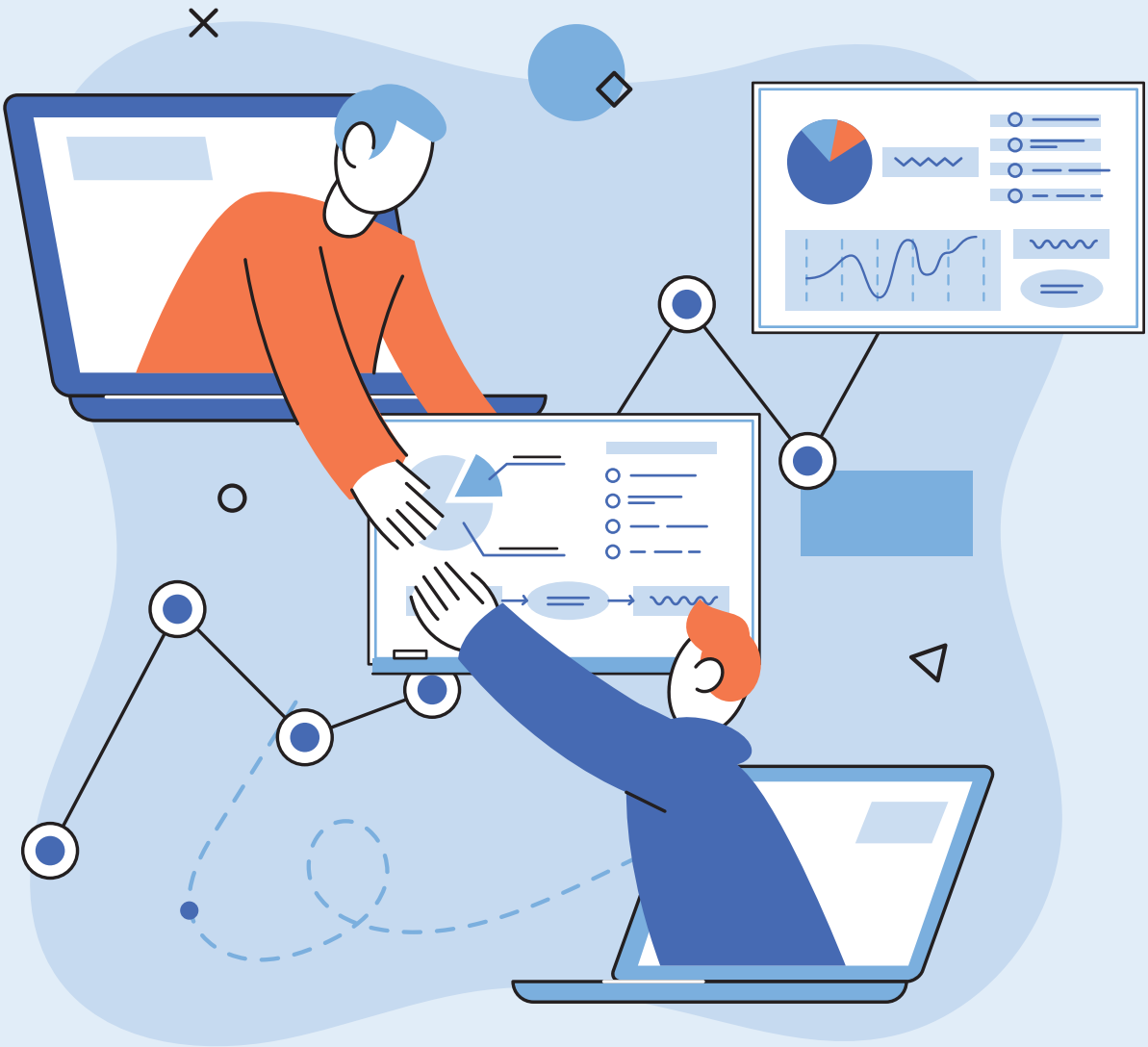
どのような経済活動も、多くの人々の協働と多様な知識の結集によって成り立っています。製品を作って売るという単純な行為でさえ、何を作るのか、どうやって作るのか、作るのに必要な労働力・資材・資金の調達はどうするのかなど、それぞれに専門的な知識や技術、それらを担う人々の協力が不可欠です。そして、このために必要な知識は、人文科学や自然科学の領域にまで広がっており、そのすべてを一人で勉強してマスターすることは現実的ではありません。そこで、経済学部の卒業生には自分自身の専門分野を磨くとともに、幅広い分野の人との協働を可能にする学識が求められます。ここでいう学識とは、コミュニケーションの基礎となるような幅広い教養や知識、および論理的思考力のことです。このような学識と専門的知識を兼ね備えた人のことをＴ字型人材と呼ぶことがあります。Ｔの横棒が異分野の人との連携を可能にする学識、縦棒の部分が深く掘り下げた自分の専門的知識の部分です。

名古屋大学経済学部は、前身である旧制名古屋高等商業学校（1920年創立）以来100年を超える伝統の中で、まさにＴ字型人材を育成してきたといえます。専門（Ｔの縦棒）を徹底的に鍛える３・４年次のゼミと卒論研究は、一人の教員が指導する学生を原則８名までとする徹底した少人数教育を厳格に実践しています。また、幅広い学識（Ｔの横棒）を獲得するために、１・２年次に行われる全学教育（一般教養）だけでなく、専門科目群の中に理論的アプローチ、歴史的アプローチ、事例研究、実地調査など多種多様な科目を用意しています。かつての旧制名古屋高等商業学校が、「単なる商業経済の専門学校でなく総合大学としての偉容を有する」と賞賛された、そのDNAを今に引き継ぎ、有為なT字型人材を自然に育むカリキュラムを展開しています。

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

APPROACH
SCHOOL OF ECONOMICS

経済学へのアプローチ
2027



名古屋大学経済学部案内